

香月きょう子・門司区医師会長 地域医療を守るために

香月きょう子
1957年生まれ。福岡大医学部卒。学校現場での、小児生活習慣病の健診システムや児童虐待防止マニュアルの作成にも尽力。北九州市教育委員も務める。趣味はテニスと日本舞踊。



地域医療について意見を交わす吉村悠(左)と香月さん

北九州市門司区で、70年続く内科・小児科クリニック「池田医院」。院長の香月きょう子さんは、門司区医師会長として奔走する毎日です。自民党第10区支部長の吉村悠が、香月さんを訪ねました。(文中、敬称略)

吉村 門司区の人口は約9万人。高齢化率は37.7%(2025年3月)で、7区のなかでは最も高いですね。

香月 どうにかしてほしい問題は加速度的な人口減です。門司区の高齢者数は約3万4000人ですが、15年後の予測では約3万1500人、25年後でも約2万8000人ですが、人口は15年後に6万人台、25年後に5万人台になります。2050年は高齢者が2人に1人の街になるのです。池田医院では、患者さんの8割以上が高齢者です。認知症が疑われる人もいます。



※日本舞踊を披露する香月さん(提供)

認知力が低下すると、要領よく話せなかったり、言葉を正しく理解できなかったりします。動きも遅くなるので、診察時間はどうしても長くなります。

吉村 それで予約制にしているのですね。

香月 一人の診察にゆつくり時間をかけたかったので、完全予約制にしています。診察時間は原則として一人20分以内です。

吉村 県議(4期)のころから地域を回り、いろいろな困りごとに耳を傾けています。

医療に対する相談も増えていきます。「周りの医療機関が閉院した」「車の免許も返納し、気軽に通院できない」という声もあります。

香月 このままだと、医療機関の倒産が懸念されます。医療は公定価格です。保険診療では、自由に価格を設定できません。一定規模の人口がないと、医療機関は存続できないのです。

吉村 北九州に企業を誘致し、若者が働く場をつくることが必要です。福岡市や東京の大学に進学し、そのまま就職したり、地元を卒業して、勤務先がほかの地域だったたりする現状を変えなくては、医療にも大きな影響を与えることを改めて痛感します。

香月 膨らみ続ける医療費が問題になっています。社会保険料の削減、湿布薬や風邪薬を保険制度の対象から外すことが注目を浴びていますが、人口が減り続ける地域の医療をどうしていくかという視点も必要でしょう。

基幹病院だけではなく、地域の医療を守っていかせません。基幹病院が大きな病気の治療をしても、生活習慣病などは地域の診療所で診察することになります。基幹病院で説明されたはずの治療方針を理解できていない、忘れてしまっている患者さんもあります。そこをフォローしていくのが、かかりつけ医の役割です。

吉村 人口減少の時代、有効な対策はありますか。

香月 医療機関が話し合っで、どの病院がどの診療科、どういった機能を残すかを決めなければならない時代になっているのではないでしょう。うか。いくつかの医療機関がそれぞれ役割を分担することで、地域医療を守っていくことを得ないと思います。

吉村 医師会の役割が大きくなりますね。政治もしっかりと支援していくことが求められていることが分かります。

吉村はるか訪問記

【発行者】
自民党福岡県第十選挙区支部

**吉村はるか
後援会事務所**

〒802-0802
北九州市小倉南区城野4-1-30
TEL:093-951-5757
FAX:093-951-5758

門司事務所

〒800-0031
北九州市門司区高田1-18-1
若菜ビル
TEL 093-342-7170

活動発信中!

